

2026年3月期中間期の業績説明及び 2026年3月期通期の業績予想



2025年10月23日



石塚硝子株式会社

ISHIZUKA GLASS Co., Ltd.

1. 2026年3月期中間期の業績説明

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、セグメント別営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2026年3月期通期の業績予想

- 通期業績予想
- 通期業績予想の進捗
- 連結業績推移

3. トピックス

- ガラス食器で初！第19回キッズデザイン賞受賞。『つよいこグラス』
- 卵殻をアップサイクルした新素材のボーンチャイナ、生産開始

連結業績ハイライト

- ✓ 売上高はプラスチック容器関連事業の新工場の出荷が寄与していること及びその他事業のパウチ飲料充填事業が新たに加わり増収。
- ✓ 利益については増収効果に加えて、企業活動におけるコスト上昇に対するコスト低減施策と販売価格の見直しなどにより営業利益は増益。なお、為替差損が発生したことなどにより、経常利益及び中間純利益は減益。
- ✓ 中間期までの実績と足元の事業環境や現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、**通期連結業績予想を上方修正（P.11）**。

（単位：百万円）

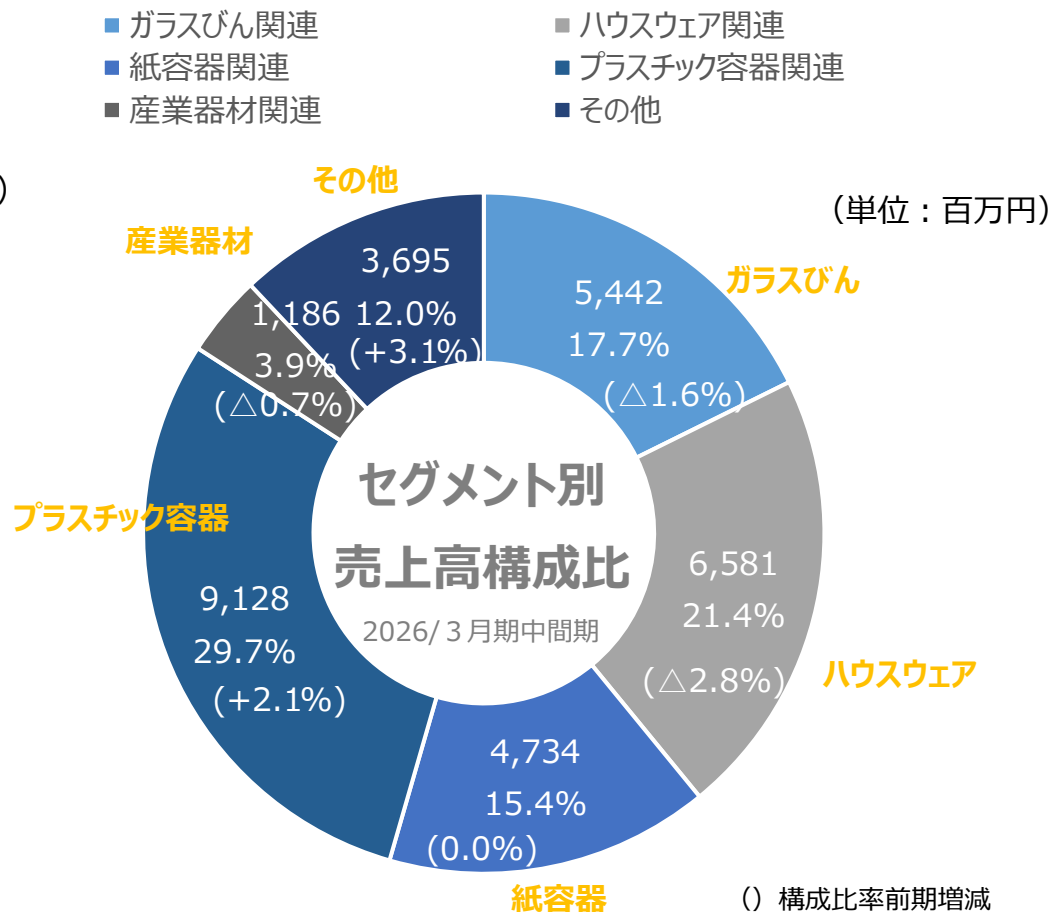
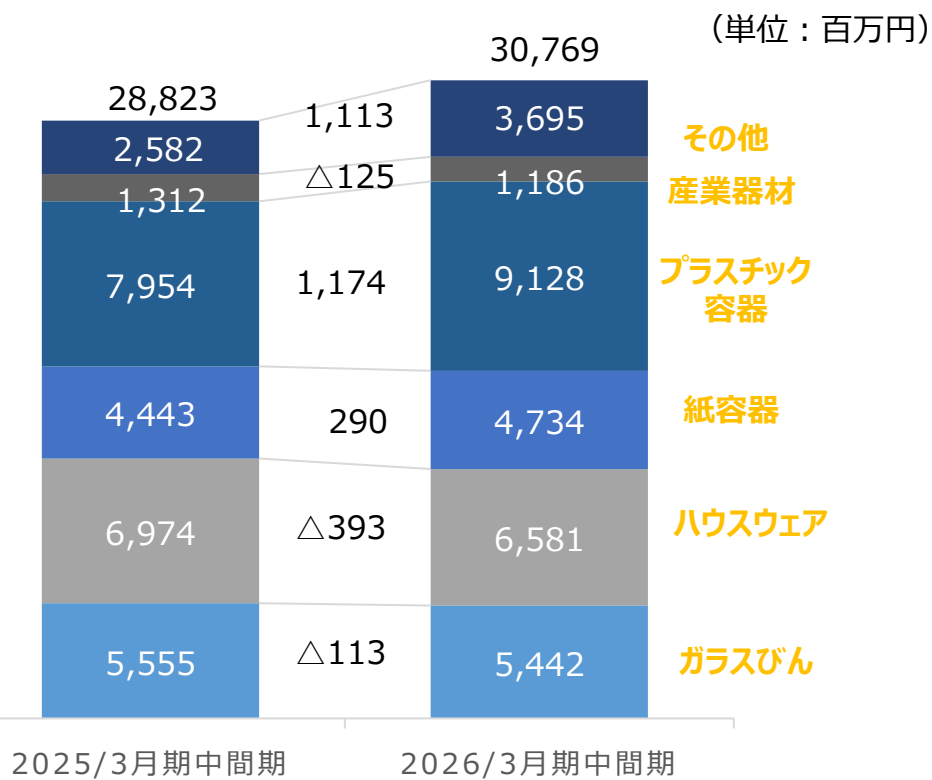
項目	2024/3月期 中間期実績	2025/3月期 中間期実績	2026/3月期 中間期実績	前年同期比		一昨年同期比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	29,855	28,823	30,769	1,946	6.8%	914	3.1%
営業利益	3,198	2,505	2,909	404	16.1%	△288	△9.0%
経常利益	3,240	2,768	2,633	△134	△4.8%	△606	△18.7%
中間純利益 ※	2,461	1,944	1,792	△151	△7.8%	△668	△27.2%

※ 親会社株主に帰属する中間純利益

セグメント別売上高

売上高

- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



セグメント別売上高

ガラスびん関連事業

売上高5,442百万円（前年同期比2.0%減）

- ✓ ガラスびんは、諸資材価格及び物流費用等の上昇に対する販売価格改定の取り組みを進めましたが、物価高による買い控えなどの影響で、出荷量が減少したことにより減収。



ハウスウェア関連事業

売上高6,581百万円（前年同期比5.6%減）

- ✓ ガラス食器は、企業向けの景品受注が減少したことにより、全体としては前年同期比微減。
- ✓ 陶磁器は、海外からの受注が堅調に推移しましたが、国内ホテル向けの受注が減少したことにより減収。



セグメント別売上高

紙容器関連事業

売上高4,734百万円（前年同期比6.5%増）

- ✓ 紙容器は、国内外原紙の調達コスト、諸資材及び物流費の上昇に対する販売価格改定の取り組みとともに新規販路の獲得もあり増収。



プラスチック容器関連事業

売上高9,128百万円（前年同期比14.8%増）

- ✓ P E T ボトル用プリフォームは、前期から新たに稼働を開始した新工場からの出荷が寄与したことにより増収。



セグメント別売上高

産業器材関連事業

売上高1,186百万円（前年同期比9.6%減）

- ✓ 産業器材は、販売製品の品種構成の変化により減収。



その他事業

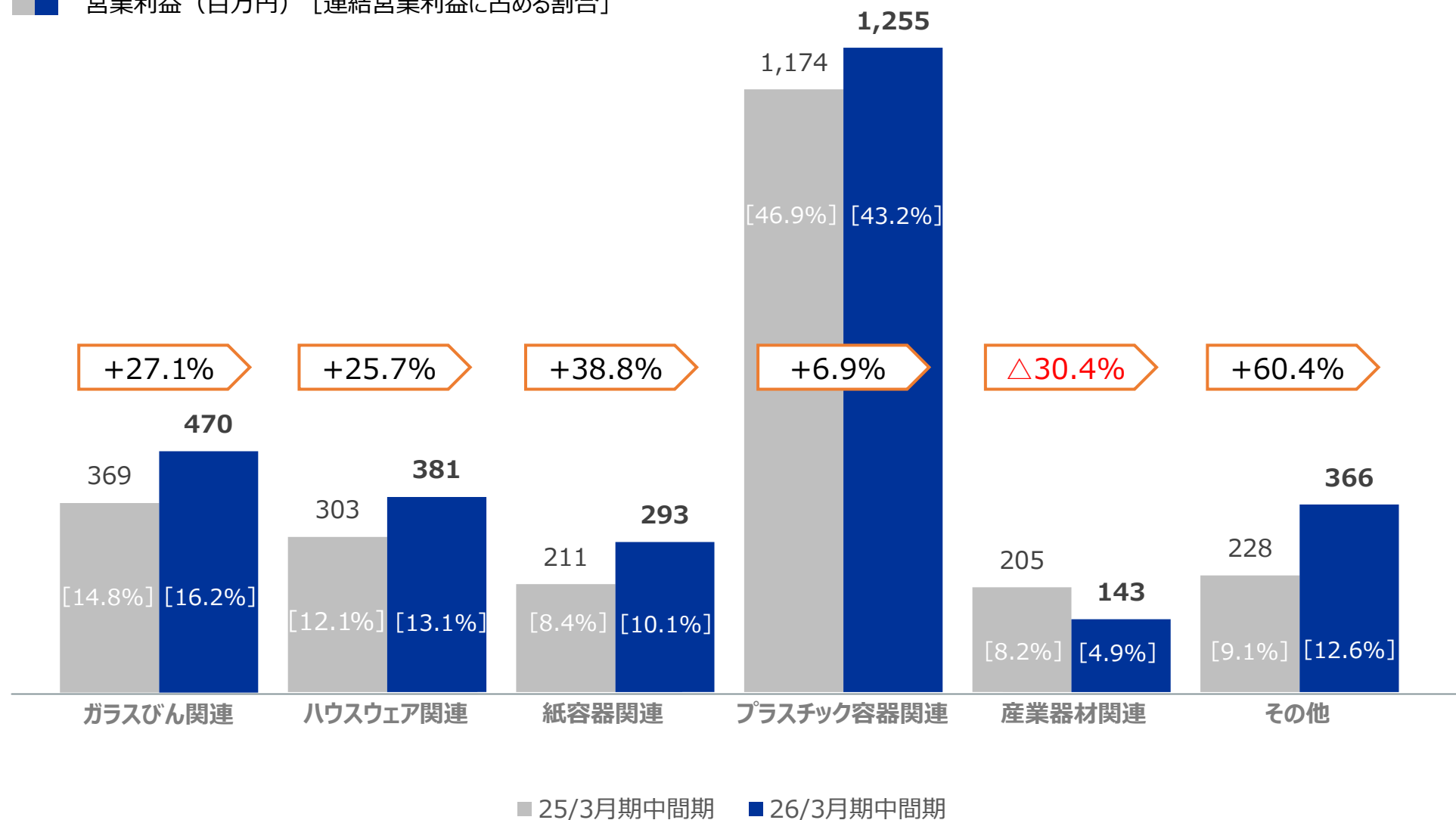
売上高3,695百万円（前年同期比43.1%増）

- ✓ 抗菌剤は原材料価格の上昇に対する販売価格是正を進めたことにより増収。
- ✓ パウチ飲料充填事業の売上高が新たに加わる。



セグメント別営業利益

■ 営業利益（百万円） [連結営業利益に占める割合]



連結貸借対照表

連結貸借対照表の主な変動要因

(単位：百万円)

	2025/3月	2025/9月	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
現金及び預金	4,905	4,177	△728	△14.8	
売上債権 ※	20,319	24,530	4,210	20.7	売上高増加に伴う運転資本の増加
商品及び製品	9,808	10,272	463	4.7	
その他	12,973	10,054	△2,918	△22.5	未収金△1,915（主に割賦バック）の減少
流動資産合計	48,008	49,035	1,027	2.1	
有形固定資産合計	44,495	44,780	284	0.6	
その他資産合計	7,913	8,472	559	7.1	
固定資産等合計	52,409	53,252	843	1.6	
資産合計	100,417	102,288	1,870	1.9	
支払手形及び買掛金	11,523	13,902	2,379	20.7	売上高増加に伴う運転資本の増加
借入金、社債、リース債務	29,472	28,369	△1,102	△3.7	
その他	24,090	22,788	△1,301	△5.4	未払金△1,695（主に設備代金）の減少
負債合計	65,085	65,060	△25	△0.0	
株主資本	25,063	26,707	1,644	6.6	
その他の包括利益累計額	8,849	9,009	159	1.8	
非支配株主持分	1,419	1,511	92	6.5	
純資産合計	35,332	37,228	1,896	5.4	自己資本比率34.9%（前期末比+1.1%）
負債及び純資産合計	100,417	102,288	1,870	1.9	

※ 受取手形、売掛金及び電子記録債権の合計

連結キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの主な変動要因 (単位：百万円)

	2024/9月	2025/9月	増減額	主な増減要因
税金等調整前中間純利益	2,768	2,585	△182	
減価償却費	1,753	2,432	679	プラスチック容器関連事業新工場
運転資本の増減額（△は増加）※	1,383	△1,914	△3,298	売上債権△3,652
法人税等の支払額又は還付額	△557	△495	62	
その他	808	2,707	1,898	未収金（減少）872、為替差損益 437
営業活動によるCF	6,155	5,315	△840	
有形固定資産の取得による支出	△5,824	△3,437	2,386	ガラスびん関連事業の溶解炉定期更新の支出
解体撤去費用の支出	△28	△278	△249	同上
その他	△19	96	116	
投資活動によるCF	△5,872	△3,619	2,253	
短期借入の増減額（△は減少）	30	1,686	1,656	
長期借入・社債の発行による収入	1,130	700	△430	
長期借入の返済・社債の償還による支出	△1,077	△4,051	△2,974	約定弁済
セール・アンド・リースバック等による収入	1,151	906	△245	設備投資に係るリースバック等収入
リース債務の返済による支出	△516	△405	111	
その他	△517	△1,176	△658	
財務活動によるCF	200	△2,341	△2,541	
現金及び現金同等物	4,371	4,143	△228	

※ 売上債権の増減額、棚卸資産の増減額及び仕入債務の増減額の合計

説明内容

1. 2026年3月期中間期の業績説明

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、セグメント別営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2026年3月期通期の業績予想

- 通期業績予想
- 通期業績予想の進捗
- 連結業績推移

3. トピックス

- ガラス食器で初！第19回キッズデザイン賞受賞。『つよいこグラス』
- 卵殻をアップサイクルした新素材のボーンチャイナ、生産開始

通期業績予想

✓ 売上高60,000百万円、営業利益4,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,450百万円を予想。

- 売上高は、概ね計画通り進捗しているため当初業績予想を据え置き。
- 利益は、各事業において企業活動におけるコスト上昇に対するコスト低減施策と販売価格の見直しを進め、当初計画よりも進捗。産業器材並びにパウチ飲料充填事業が当初計画より落ち込む見通しのため、今後の下押し要因となるが、当初業績予想よりも増益となる見通し。

項目	2026/3月期 当初業績予想	2026/3月期 修正業績予想	増減	増減率	2025/3月期 実績（ご参考）
売上高	60,000	60,000	－	－	55,994
営業利益	3,800	4,000	200	5.3%	3,849
経常利益	3,500	3,650	150	4.3%	3,713
当期純利益 ※2	2,350	2,450	100	4.3%	3,088
配当金	65円	65円	－	－	65円

（単位：百万円）

※1 当社取引先のシステム障害に伴う業績への影響は考慮しておりません。

※2 親会社株主に帰属する当期純利益

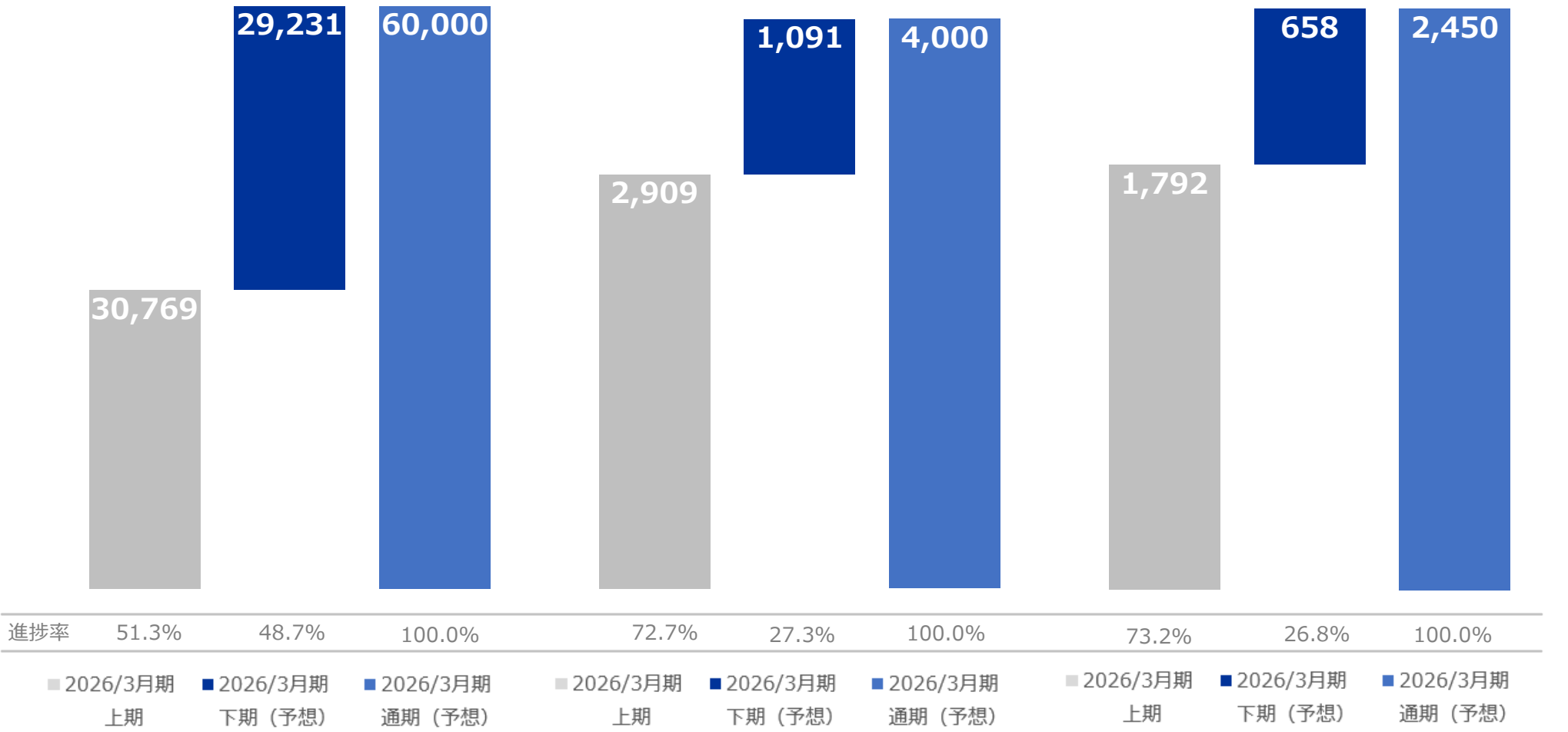
通期業績予想の進捗

(単位：百万円)

売上高

営業利益

親会社株主に帰属する当期純利益



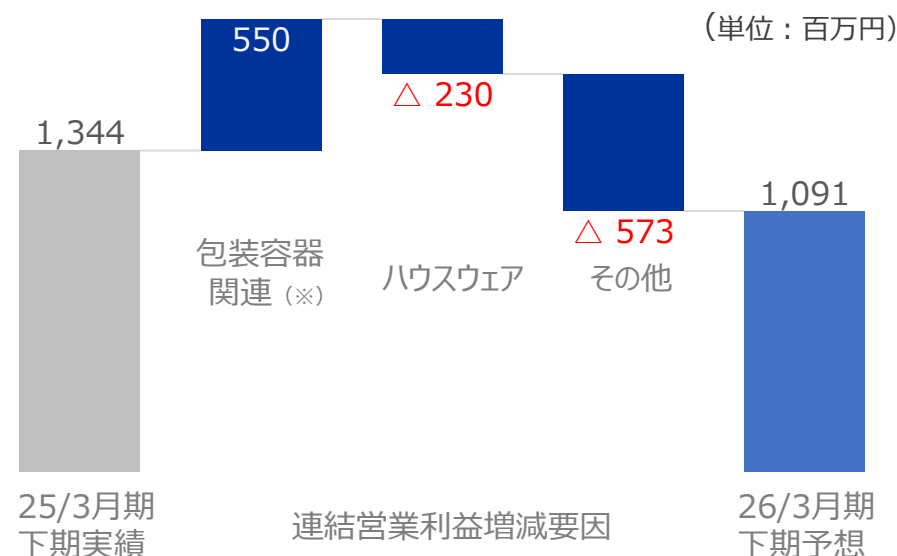
通期業績予想の進捗

▶ 全体の概況

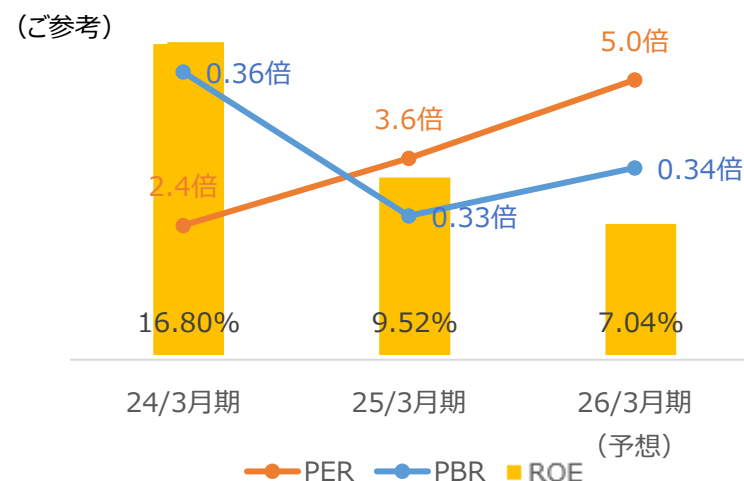
- 26/3月期上期の営業利益は2,909百万円、前期対比+404百万円。
- 26/3月下期の営業利益予想は1,091百万円、前期対比△253百万円の見通し。

▶ セグメントの概況

- 包装容器関連（※）は下期営業利益対比+550百万円の見通し。25/3月期は下期にガラスびん事業の溶解炉定期更新を実施。26/3月期はその影響がなく、プラスチック容器関連のPETボトル用プリフォーム工場が順調に稼働していること等により前下期対比は+550百万円の見通し。
- ハウスウェア関連は、陶磁器が前下期対比減益となり全体で△230百万円の見通し。
- その他は、抗菌剤が25/3月期下期に特需があったことに加えて、26/3月期期首より新たに操業を開始したパウチ飲料充填事業が伸び悩み△573百万円の見通し。



(※) ガラスびん関連、紙容器関連、プラスチック容器関連の合計値

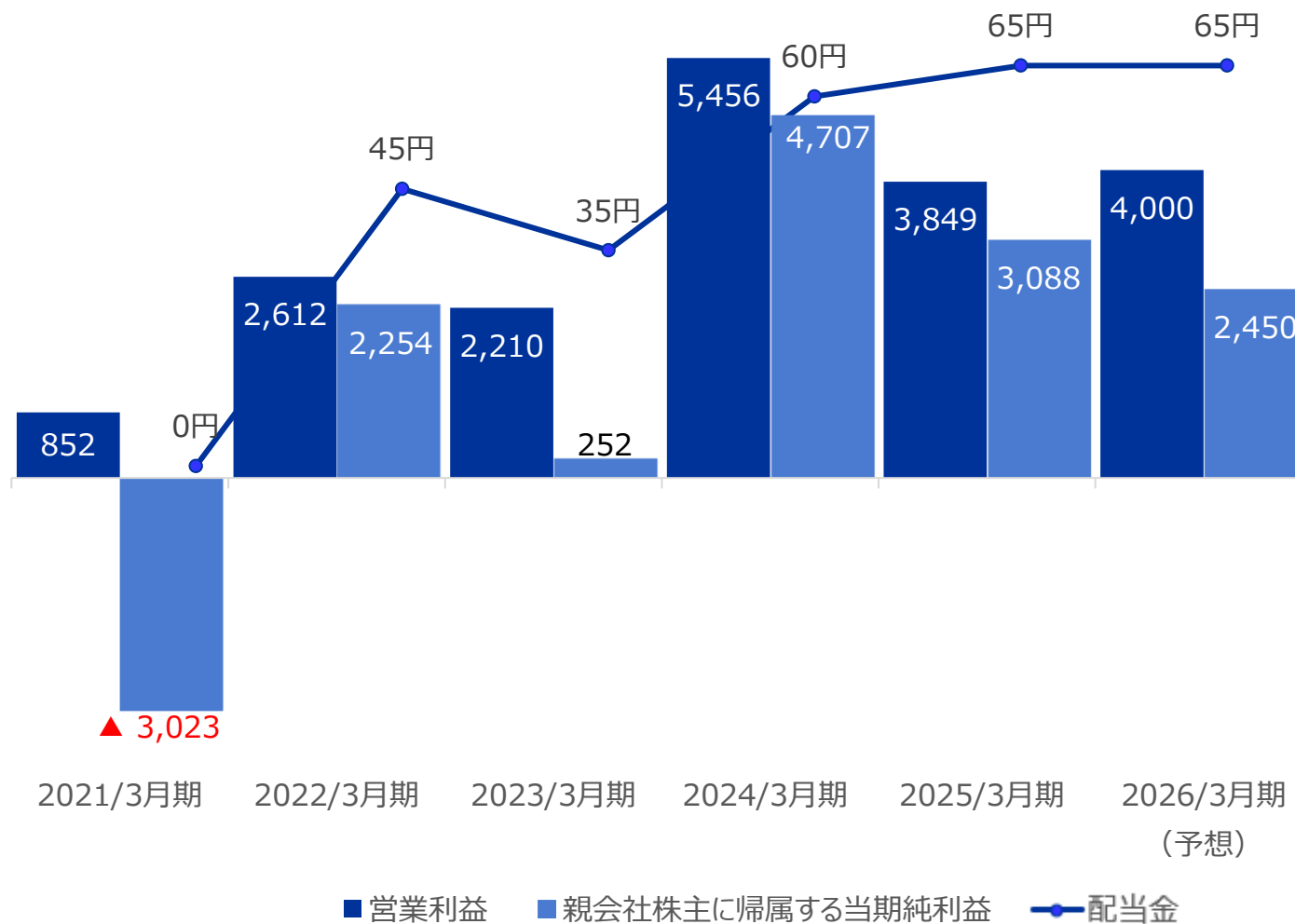


(注) PER及びPBRは、決算発表日又は決算日の株価終値に基づき試算。

連結業績推移

営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益 並びに 1 株当たり配当金推移

(単位：百万円)



説明内容

1. 2025年3月期中間期の業績説明

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、セグメント別営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2025年3月期通期の業績予想

- 通期業績予想
- 通期業績予想の進捗
- 連結業績推移

3. トピックス

- ガラス食器で初！第19回キッズデザイン賞受賞。『つよいこグラス』
- 卵殻をアップサイクルした新素材のボーンチャイナ、生産開始

■ ガラス食器で初！第19回キッズデザイン賞受賞。『つよいこグラス』

【受賞製品紹介】

“ガラスの器で育むこどもの感性”をコンセプトに、2007年に誕生した子ども向け食器シリーズ「つよいこグラス」。ガラス食器は割れる、という理由で子どもから遠ざけるのではなく、物を丁寧に扱う経験や天然素材でもあるガラスという“本物”に小さな頃から触れさせる事が大切、という食育指導士でもある保育士さんの視点から、使いやすさや安全面を考慮しています。中央にあるくびれが子どもの小さな手でもしっかりと持ちやすく、日常使いにも適しています。今年5月には、“大人と子どもが一緒に使える新サイズ「つよいこグラスL」”が発売になりました。

ブランドサイトURL : <https://aderia.jp/series/tsuyoikoglass/>



【キッズデザイン賞とは】

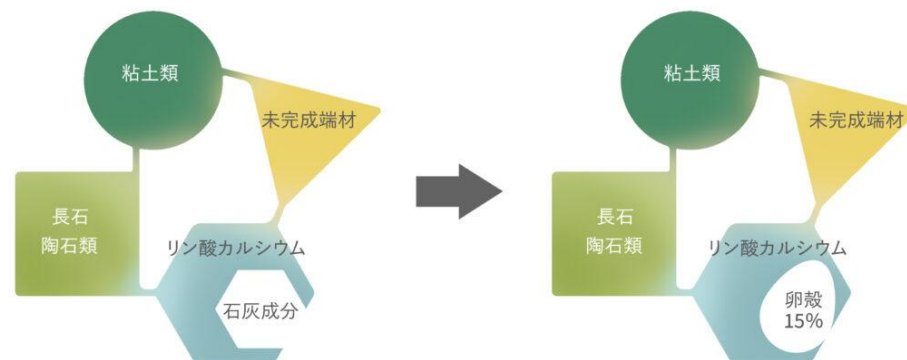
キッズデザイン賞は、「子どもたちが安全に暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という目的を満たす、製品・サービス・空間・活動・研究の中から優れた作品を選び、広く社会に発信していくことを目的に2007年に創設されました。子ども用にデザインされたものはもちろん、大人・一般向けに開発されたものでも、子どもや子育てに配慮されたデザインであればすべてが対象です。

KIDS DESIGN AWARD URL : <https://kidsdesignaward.jp/>

16

■ 卵殻をアップサイクルした新素材のボーンチャイナ、生産開始

- 卵殻を活用した新素材によるボーンチャイナの製品化を実現し、生産を開始いたしました。環境への配慮と品質の両立を目指し、より持続可能なモノづくりを推進してまいります。
- 鳴海製陶(株)は、他業界で生み出された卵殻を資源として活用する新素材の研究開発を進め、環境にやさしいモノづくりの可能性を追求してまいりました。その成果として、新素材を用いたボーンチャイナの製品化を実現しました。
- 新素材のボーンチャイナは、従来の品質はそのままに、資源を循環的に活用することで新たな価値を生み出しています。卵殻が新しい形で食器として生まれ変わり、日々の暮らしの中で自然にサステナブルな未来づくりにつながることを目指しています。
- 本取り組みは、持続可能な社会の実現に向けた当社の新たな一歩です。今後も、環境に配慮した素材開発とモノづくりを通じて、地球にやさしい選択肢を社会に提供し続けてまいります。



取り組み詳細はこちら：<https://www.narumi.co.jp/information/45646/>

本資料についての留意事項

- 本資料は金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競業状況等、多くの不確実な要因による影響を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。